

東京大学大学院医学系研究科・医学部  
男女共同参画委員会主催  
第10回医学系キャリア支援のための交流会  
開催報告および参加者アンケート集計結果

## I. 企画の概要

1. 目的：大学院医学系研究科・医学部、および、医学を志す教養学部生・高校生などにおいて、  
①医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。  
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2022年6月21日（火） 16:50～18:00（第一部：現地+オンラインのハイブリッド形式）  
18:00～19:00（第二部：現地のみ）
3. 会場：東京大学医・総合中央館（図書館）333会議室およびオンライン（Zoom）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員  
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員  
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）  
※ 他機関からの参加可。
5. 申込方法：事前申込制。  
現地参加定員 55名（高校生は最大15名まで）  
オンライン参加定員 先着500名まで登録可。
6. 内容：  
司会・進行：細谷紀子、本田郁子  
＜第一部＞  
16:50 開会挨拶  
（水島昇 副医学系研究科長・副医学部長、瀬戸 泰之 医学部附属病院長）  
16:55 講演  
錦織千佳子先生（兵庫県赤十字血液センター所長）  
ライフワークバランス：「焦らず弛まず、夢を持って」  
17:40 質疑応答・全体討論  
17:58 第一部縮めの挨拶 吉川 雅英 男女共同参画委員会委員長  
＜第二部＞  
18:00～19:00（現地のみ） 自由歓談・情報交換
7. 企画・運営：  
東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会  
第10回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会  
（幹事）細谷紀子・本田郁子  
（委員）庄田宏文・菅谷佑樹・田村純人・野村幸世・春名めぐみ  
M4：鐘ヶ江真理子・矢野孝信・和田都花  
M3：鈴木暢英・中桐悠一郎・三武さわ  
M2：伊藤遥・鎌田康生・渡壁健太  
M1：折井森音・南佳里  
C2：神作優尊

## II. 開催報告

### 1. 参加申込者数と属性

#### 【全体】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
招待講師)錦織千佳子先生	1			
東大)教員	10	13	23	13
東大)ポスドク・病院診療医	1	1	2	1
東大)大学院生	4	4	8	5
東大)研修医	2	4	6	3
東大)学部学生(医学部+教養学部理科三類)	18	11	29	17
東大)その他(技術職員・事務など)	0	5	5	3
学外)高校生	15	61	76	44
学外)その他	4	19	23	13
合計	55	118	173	100

#### 【高校生の所属の内訳】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
東京学芸大附属(東京都)	5	11	16	21
日比谷(東京都)	4	6	10	13
豊島岡女子(東京都)	2	5	7	9
戸山(東京都)	1	22	23	30
筑波大附属(東京都)	1	2	3	4
白梅学園(東京都)	1	0	1	1
東邦大付属東邦(千葉県)	1	0	1	1
帯広大谷(北海道)	0	6	6	8
渋谷教育学園渋谷(東京都)	0	1	1	1
広尾学園(東京都)	0	1	1	1
鎌倉女学院(神奈川県)	0	1	1	1
鳥取西(鳥取県)	0	1	1	1
県立緑岡(茨城県)	0	1	1	1
角川ドワンゴ学園S(茨城県)	0	1	1	1
不明(記載なし)	0	3	3	4
合計	15	61	76	100

#### 〈性別の内訳〉

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
男性	20	50	70	40
女性	35	68	103	60
計	55	118	173	100

### 2. 当日参加者数

現地参加者 47名(会場受付で確認)

オンライン参加者 54名(Zoomの接続記録より)

### 3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて1年延期とした2020年を除き、毎年6月の男女共同参画週間の頃に開催されてきた。第10回目を迎える今回は、初めてハイブリッド形式（現地とオンライン（Zoom）の併用）で開催した。当日は、学内外から47名の現地参加、54名のオンライン参加があり、そのうち約半数を高校生が占めた。講師として、兵庫県赤十字血液センター所長、神戸大学名誉教授の錦織千佳子先生をお招きし、若手の医師・研究者・学生・高校生のキャリア形成に対する意識を高めるとともに、ライフイベントを経験しながら前向きに臨床・研究を展開する生き方への理解を深めることを目指した。

開会にあたり、水島昇副医学系研究科長・副医学部長と瀬戸泰之医学部附属病院長より挨拶をいただいた。水島副研究科長・副学部長は、現在東京大学が「ダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（包摂性）」（D&I）を推進しようとしていること、また、医学系研究科の取り組みとして、5年以内に女性教員の比率を25%以上にすることを目指すこと、また、障害のある医療者が包摂されるチーム医療の普及を推進する「医学のダイバーシティ教育研究センター」が2021年4月に設置されたことを紹介した。瀬戸病院長は、初めてのハイブリッド開催となる第10回交流会に多くの参加登録があり、その半数近くが高校生であることの喜び、そして、錦織千佳子先生の講演への期待を述べられた。また、教職員のキャリア形成のための場を提供することは病院の重要な役割の一つであり、多くの高校生が東京大学入学を目指し、将来素晴らしいキャリアを積んでほしい旨を述べられた。

続いて、講師の錦織千佳子先生（兵庫県赤十字血液センター所長）により、「ライフワークバランス『焦らず弛まず、夢を持って』』というタイトルで講演が行われた。

錦織先生は、神戸大学医学部卒業後、京都大学医学部皮膚科に入局して研修を積み、大学院進学と同時に結婚、のちに出産を経験された。初めての育児が始まった数年、また、アメリカ留学と子供の小学校入学が重なったときは、大変だったが、その後はご自身のやりたい仕事に注力する生活を送られてきた。錦織先生は、大学6年生までは男女の違いを感じることはなかったが、臨床実習の時に、（当時）女性があまり歓迎されない診療科があることを知り（注：現在はそうではないとのこと）、女性医師としての一生を熟考する機会があった。そのとき、どんな選択も一長一短がある、「たった一度の人生」なので、自分のやりたいことを一通りやってみよう、と決意された。そしてこれまで、仕事は自分のアイデンティティであり自己実現である、仕事は自分の一部である、と考えてこられたという。

錦織先生が色素性乾皮症を専門に選んだきっかけは、大阪赤十字病院での一人の患者さんとの出会いであった。隣で診察を見ていた部長が、その患者がゼロピー（XP：色素性乾皮症）あることを見抜いた。錦織先生はそのことに大変驚かれた。そして、その色素性乾皮症の患者が世界で2番目の色素性乾皮症の一種（F群）であることを証明したのが、大学院生としての最初の研究となった。興味を持った症例にこだわることは大事であると述べられた。大学院生時代、もう一つの大きなテーマとして、XPの病態の一面でもある紫外線発がんについての研究を始められた。その研究を通じ、期待した結果が得られなくても、それを捨てるのではなく、なぜそうなのかももう一步進めて考えることが大事ではないか、予想外の結果は面白いことかもしれない、と思われたそうだ。また、学会発表した機会にドイツとスイスへ家族旅行をしたときの、素敵な写真を披露された。

大学院での研究が一段落した後、紫外線発癌機構に密接に関連する「紫外線による免疫抑制機構」に興味を持ち、その研究をするためにアメリカMD Anderson Cancer Center 免疫学講座に1年間留学した。留学先では、ケラチノサイトへの紫外線照射によってピリミジンダイマー型のDNA損傷を起こすことで、免疫抑制因子であるIL-10が培養上清中に産生され、それを投与したマウスでは免疫抑制が起こるという

研究を行った。その後、神戸大で、XP の遺伝子診断と治療法に関する研究を開始した。色素性乾皮症モデルマウスを用いた実験では、紫外線照射により炎症反応が亢進され、血清中のケモカインが上昇することを見出した。そこで、DNA 損傷が引き金となっておこる炎症を抑えれば、がん化を防げるかもしれないと考え、酸化ストレスが誘因となる炎症を抑える創薬のスクリーニングから、候補薬 X を見出した。そして、2022 年 4 月より、候補薬 X の色素性乾皮症に対する医師主導治験を開始した。

最後に、若い人たちに伝えたいこととして、患者、共同研究者、恩師などとの出会いを大切に、また、与えられた場所で与えられた課題を大切にしてほしい、仕事は自己実現であり、やりたいことをマイペースで、周囲と協力しながらゆっくりでよいので続けてほしい、というメッセージを述べられた。

質疑応答の時間には、会場から、育児との両立で大変だったことは何か、研究に関すること、皮膚科の興味深い点、色素性乾皮症患者と初めて出会ったときのことについてなど、数々の質問が寄せられた。オンライン参加者からは、医学科に進んで予想通りだった点と予想外だった点、進路選択でのアドバイス、研究を始めるときに心がけるべきことなどの質問が挙がった。それらの質問に対し、錦織先生から丁寧な回答と、アドバイスや意見が述べられた。

閉会挨拶として、吉川雅英男女共同参画委員会委員長より、錦織先生へ謝辞と、先生の研究が基礎に始まり臨床での治療薬までに至ったことに大変感動したとの感想が述べられた。また、本交流会で学んだことが参加者の今後の進路決定やキャリアに活かされることを願われ、第 1 部を締めくくった。18 時 10 分より第 2 部として、現地参加者のみによる自由歓談の時間が設けられ、高校生や医学部学生を中心に約 30 名が残って引き続き参加した。質問は途切れることなく続き、19 時過ぎまで会は続いた。高校生や大学生が講師や教員を積極的に囲んで対話をし、とても充実した「交流」の時間を持つことができた。

### III. 参加者アンケートの集計結果

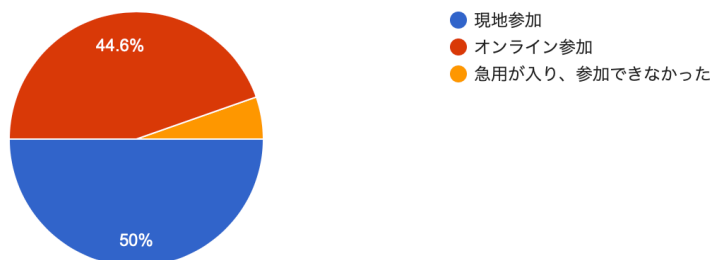
当日参加者数：101人（現地参加者47名、オンライン参加者54名（接続記録より））

アンケート回答者数：56件（回収率55.4%）

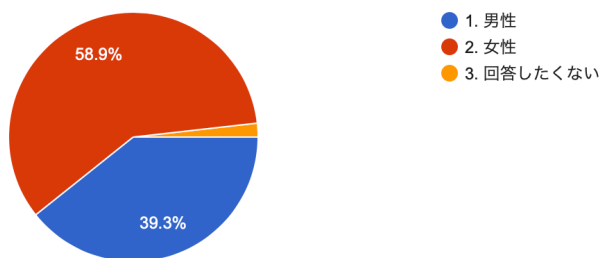
アンケート実施方法：参加登録者全員にGoogleフォーム経由の回答を依頼

#### <基本情報>

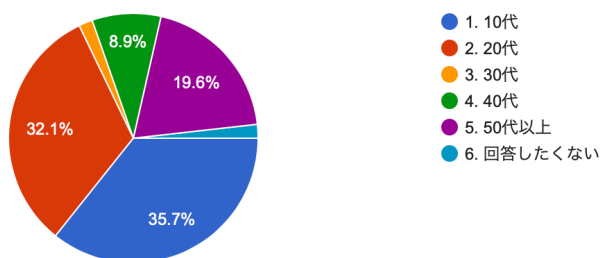
A0) 今回の「第10回医学系キャリア支援のための交流会」はハイブリッド形式で開催しました。参加いただけましたか？参加した場合、どちらの方法で参加されましたか？



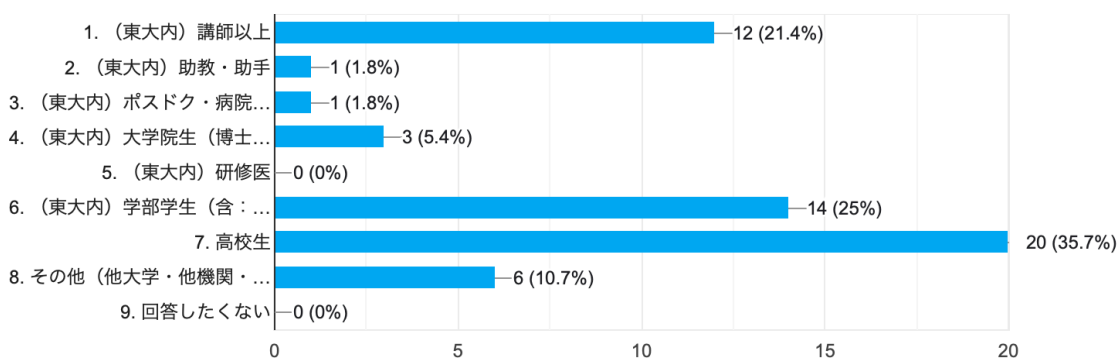
A1) 性別



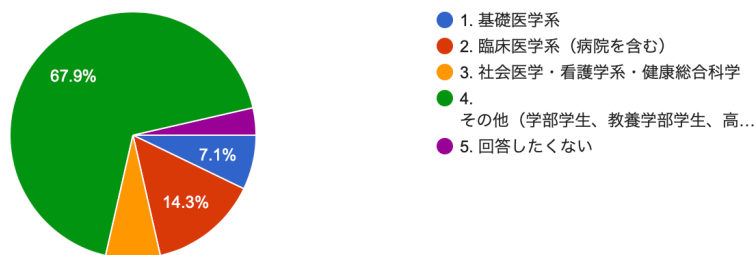
A2) 年齢



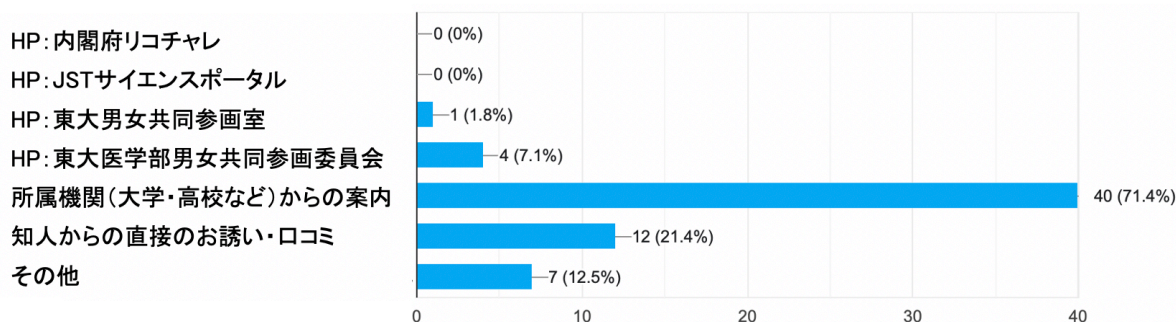
A3) 職種・職位（特任・客員を含む）



#### A4) 所属分野

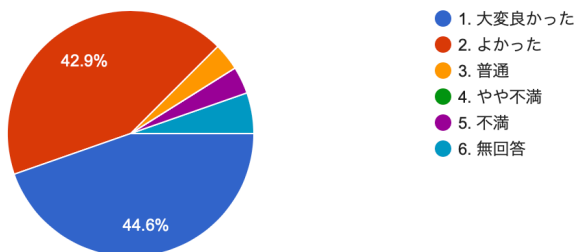


#### A5) この会を何でお知りになりましたか (複数回答可)



#### <今回の企画について>

#### B1) 講演 錦織千佳子先生” ライフワークバランス：「焦らず弛まず、夢を持って）」について



#### B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想 (自由回答)

- ・ 錦織先生の研究に関する内容がとても興味深く、病態解明から新たな治療薬の開発にいたるまでわかりやすく、エキサイティングな内容でした。先生がいかにして興味分野を見つけ、そこでどのようなモチベーションでこれまで長くやってこられたのかを知ることができたのが良かったです。どのように家庭と仕事を両立するか、ワークとライフのバランスを考えることも重要だが、何よりも一生継続けられる、続けたいと思える分野にめぐりあうこと、そこから一意専心で長くやり続けることが第一に大事なのだと感じました。私自身の進路、将来を考えるにおいて非常によいものさしを得られたと思います。
- ・ ご自身の研究の進捗についてお話される中で、その時々で、どのように考えて臨まれたのがよく分かるご講演でした。Scientific な面においても非常に満足度の高いものでした。
- ・ キャリアのこと、サイエンスのこと、どちらも特別に素晴らしかったです。高校生、大学生にアピールする大変良い講演でした。

- ・学術的な内容がとても充実していた。
- ・キャリアのお話というよりも、病態から治療まで研究を進められたことに驚いてしまいました。
- ・錦織先生の研究に対するしなやかな熱意を感じた。身近な出会いを確実な一歩につなげ、さらに展開されてきたことがよくわかった。色素性乾皮症の診断から始まり、現在治験にまで至っていることが素晴らしいと思った。
- ・臨床と研究とのつながりが実際にどのように医療に貢献されているのかわかり、興味深い内容であった。
- ・講演では、女医として家庭と仕事を両立する上で、仕事にアイデンティティを見出しやりたいことをやるという錦織先生の生き方は、進路を考える上でとても参考になりましたし、夢を追い続けて良いのだと思えました。また先端に行く専門的な内容を、長年研究されてきた方から直接伺えたことはとても貴重な機会でした。
- ・自ら選択しつつも、与えられた環境の中で精一杯頑張ることの大切さが印象に残りました。
- ・錦織先生が、診療科や医局の選択、留学の有無などのライフワークバランスやキャリアについての選択をする際に何を考えていらっしゃったかを伺うことができ、大変参考になりました。また、研究についての詳細の内容もあり、とても興味深かったです。
- ・実体験に基づくお話をお伺いできましたので、今後進路を考える方に大変参考になったと思います。
- ・錦織先生がどのような道を歩まれてきたのか分かりやすく教えていただき、大変興味深い内容でした。
- ・大変勉強になった。
- ・大変興味深く拝聴しておりました。
- ・研究の内容だけではなく、研究のために海外に行く選択をされた経緯、家族についてなど、仕事だけでなく、家庭での生き方についてもお話しして下さったのがよかったです。また、現地参加の学生の質疑応答が活発で、オンラインでも質問しやすかったです。
- ・学問へのご興味は大変よく分かりましたが、家庭運営、ご主人の家庭運営への参画などのお話ともう少し欲しかったです。
- ・皮膚科の専門的なお話をお聞きすることができとても良かったです。ご家族やキャリアについてさらに詳しくご講演の中でお話いただけるとありがたかったです。
- ・医師はどうしても社会的な男女格差が生まれやすい職業のひとつですが、錦織先生がアクティブにご自身のしたい事を出来るだけ制限なさらずに、生活と仕事と上手くバランスを取られてきたのだなと感銘を受けました。医師免許制度や時代の風潮は当時と現在では異なるものではありますが、時代毎に違った障壁を乗り越えていきたいとポジティブに考える勇気をいただきました。
- ・ご講演につきましては、大変専門的な内容を含んでいるにもかかわらず、わかりやすくご説明していただきまして、とてもありがたく思っております。また今後の進路の考え方について、特に医学を志す高校生にとっては大変示唆に富んだ内容であったと確信しています。参加できた高校生たちは大きな励みを得たと思います。
- ・第一部の講演では、まだ女性医師の少ない時代で、結婚や子育てをと仕事を両立していた先生のお話は、これからの人生でライフワークバランスを考える上で参考になりました。特に女医は子育てをするなら同年代の人から5年くらい遅れるのは当然だから、焦らず自分のペースで自分のやりたいことをやった方がいいというお話は、焦って進路を決めようとしていた私をはっとさせるものでした。また、第二部の交流会では、理3の医学生の先輩にどうして理3に入ろうと思ったのか聞

いたところ、東大のラボで研究したいからだとお答えいただき、医師としての進路の幅広さを知らることができました。

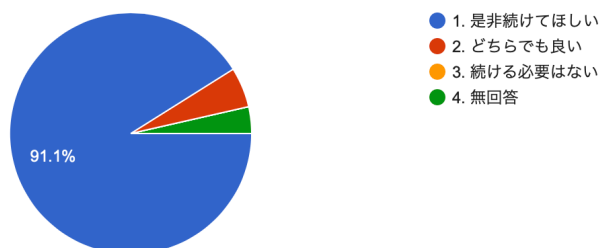
- ・ 錦織先生のご講演は高3生である自分にとって、とても良い刺激となりました。特に、「自分がやりたいと思ったことをやれば、大抵のことは上手くいく」とおっしゃられていて、自分が今まで興味に従って色々なプログラムに参加してきたことは、学校の先生には否定的な指摘をされたこともありましたが、無駄ではなく、未来の自分にとってプラスになると信じることができました。また、信じるだけでなく、無駄ではなかったと言えるように、これからも努力していきたいと思えました。
- ・ 今まで長く医療の第一線で活躍されてきた女性のお話を伺えたことで、将来医学系の道に進みたいという思いをより強くもつことができました。今までは医学に興味がありつつも自分が女子であるという理由で、性別に関係なく同じ待遇を受けられるのか、学校を卒業後仕事を続けていけるのかなど少し心配している部分がありました。また、性別の問題以前に医学系に進んだとしてどのように大学生、大学院生生活を送り、どのように仕事を見つけていくのか、どのように研究を進めていくのかなどについてよく理解できていない部分が多く、大学生以降のライフプランをたてるにもイメージのわからないところがありました。しかし、今回の交流会に参加して講演の中で先生の経験をもとにした現状や研究方法について知れたり、将来の決め方についてアドバイスをいただいたり、実際に今大学に通われている医学生とお話できたりして、自分の将来や医学の道に進むということについてより詳しく考えられるようになったと思います。普段は出会わないような様々な年齢、職種、学校の方々と交流する機会が持ててたくさんの学びが得られたとともにとっても楽しむことができました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・ 貴重なお話を聞いてとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 貴重なお話を聞くことができよかったです。私は将来医療に携わる仕事をしたいと思っているので、今後も頑張っていこうと感じました。
- ・ 将来、さらに医療関係の仕事に就きたいという気持ちが強くなりました。
- ・ 第一線でご活躍されている先生も悩みながら歩まれてきたことを知ることができて勇気が出ました。
- ・ 高校生からしたら難しい内容でしたが、医学部に入って、そして医師になってどのようなことを研究するのか具体的に知ることができました。また、錦織先生も過去に私と同じような悩みを抱えていらして、少し安心しました。
- ・ 女性で現役医師をされている先生の貴重なお話を聞くことができ、とても自分の将来への参考になりました。研究内容や治療方針などの話はまだ私には難しく、全てを理解することはできませんでしたが、実験の分析・統計処理の仕方は参考にしようと思いました。講演内容についてですが、初めて色素性乾皮症(XP)を知り、たった1cm<sup>2</sup>日に当たってしまうだけで全身に病気がまわってしまうことに驚きました。私は現在救急医に興味を持っていますが、このような皮膚関連の病気を持った患者さんも多くいると思うので、医者になれば医療に関する幅広い知識を身に付けていきたいと思えます。
- ・ 医学系に関する幅広い所属の方々お話しできる機会は滅多にないので、貴重な機会を作ってください、ありがとうございました。大変興味深い講演でした。しかし一点だけ申し上げますと、医療系の方々にとっては普通なことかもしれませんが、私のような高校生にとって皮膚の病気の写真が少し衝撃的でした。なので写真を出す前に一言添えていただけたら心構えができたかなと感じました。
- ・ 高校生にはあまり興味の湧かない内容だった



### 参加できなかった方からのご意見：

- ・急用にて参加できず申し訳ありませんでした。大変興味深いテーマで残念でした。オンデマンド配信などされるようであれば是非拝聴させていただきたく存じます。

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。



B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

### 交流会について：

- ・毎年、ワークとライフのバランスのお話にとどまらず、先生方の第一線の研究内容をお聞きできるのがとても楽しみです。来年以降は研修医になるのですが、ぜひメールなどでお知らせいただければオンラインでも参加したく思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・入学時よりほぼ毎年、交流会に参加させていただきました。様々な女性医師およびキャリアを持つ女性とご結婚された先生が、人生の岐路で何を考えていたのか、振り返ってどうご考えになられるのかを詳しく知る事ができ、たくさんの素敵なロールモデルを知る事ができました。一人ずつ考え方や、人生、時代の流れは異なりますが、たくさんのロールモデルを念頭に置く事が出来たことは、自分の方向性を持った上で今後の道の選び方に大きく影響を与えるだろうと感じていますし、自分も強くしなやかに生きたいと思えるようになりました。貴重な機会をありがとうございました。卒後も機会ございましたら参加させていただきたいと思っております。
- ・毎年興味深く拝聴しております。今年も素敵な講演会をありがとうございました。
- ・若手学生と意見を交わせるこのような交流会は素晴らしいと思います。
- ・大変貴重な機会を与えていただきありがとうございます。高校生の進路指導に携わっておりますが、医学分野に進路を考えている生徒たちにとりましては、このように「本物」を感じとれる機会がありますことが、何よりも動機づけになると考えております。今後ともこのような機会を得られますことを希望いたします。交流会を運営されたみなさま、心より感謝申し上げます。
- ・今回のように様々な年齢の方と進路や医学についてお話する機会が今までなかったので、非常に刺激を受けましたし、とても有意義な時間でした。是非またこのような会を企画していただきたいです。最後に、伝わるかはわかりませんが、(学生実行委員の) 三武さわさん、遅くまで本当にありがとうございました。
- ・交流会は楽しかった。
- ・最初は交流会と聞いて周りの人と話せないだろうなと思っていましたが、みなさんがフレンドリーに話しかけてくださりとても安心しました。また高校生だけでなく、医学生や教授の方々と会話を交わさせていただき、非常に充実した時間を過ごさせていただきました。全体的にレベルが高かった分、モチベーションを高めることができましたと思います。絶対に医学部に入学できるよう、頑張

ります。やはり対面形式による講演会は実際に面と向かって話を聞けるという面で、非常に意味のあるものだと今回の会を通じて感じました。ですので、今後もこのような会を開催していただけると幸いです。先日は本当にありがとうございました。

#### 今後の交流会に関するご要望：

- ・もし可能でしたら、他の先生方のお話も同時にお聞きしたいと思いました。
- ・男女共同参画を進める上での、職業選択や家庭運営などの上手いやり方を経験談としてお話しできる先生にもご登壇いただきたいと思います。
- ・交流会だけでなく、こうしたワークライフバランスについて考える機会がありましたら是非参加したいです。学生実行委員としては宣伝をして参加することしかできていないので、準備段階などでも関わらせていただけることがあったら是非お願いいたします。
- ・音声の質が改善されることを期待しています。
- ・オンラインですが、質疑のところの音声途切れ途切れになってしまいました。こちらの環境の問題かもしれません。
- ・高校生の参加者が女性が多かったように感じました。先着ではなく、大学側の選考であるのであれば、もちろん東大内の女性率を上げる点から考えれば女子生徒を優先的に現地参加に招待することはわかるのですが、男女共同参画社会という点から考えると男女隔てなく招待すべきではないかと考えました。
- ・後半の交流会は、コロナ禍でない例年がどのような形態で行われていたのかは分かりませんが、事前に応募時に興味のある分野を回答したと思うので、あらかじめグループ分けをしてくださった方が個人的にはより自分が知りたいことを知れたように思えます。また、今回は現地参加の人数が限られていたこともあるのか、同じ学校の方はそこで固まっていて、学校から一人で参加した自分は孤立してしまったのと、個人的には高校生が初対面の大学生や先生方に声をかけることは難しいと思いました。
- ・事前申し込みをしていたのですが、zoom URLが無効で参加できませんでした。所属大学かつ申し込みしたメールアドレスの zoom アカウントでログインをしていたのですが、参加を押すと申し込み画面に戻ってしまい、の繰り返しでした。zoom 部屋番号とパスワード入力も試してみましたが同様でした。参加したかったので残念です。

#### 男女共同参画委員会の活動について：

- ・第10回目の交流会が盛況に終わり、おめでとうございます。10年間にわたり、定期的に続けてこられたことは素晴らしいと思います。昨年からはオンラインも活用するようになり、高校生を含む、より多くの方々がアクセスできる行事に成長しつつあると思います。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。  
本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思っております。  
今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部  
男女共同参画委員会